



ちいさな絵本館だより

2011年5月発行

第5号

緑のまぶしい季節になりましたね。

暖かくなり、緑がより鮮やかで美しい季節になりました。いよいよ、ちいさな絵本館でも絵本の貸し出しがスタートすることになりました。保護者の皆さんも、子どもたちが眠った後に、絵本をゆっくり楽しんでみてください。違った世界が体験できるかもしれませんよ！

『ぼくのにんじん』 ルース・クラウス：文 クロケット・ジョンソン：絵 ペンギン社

子どもたちは種蒔きすると、蒔いてすぐ芽が出てないかと覗き込んでいます。待ちに待って、小さな芽がでているのを見つけた時の喜びようったら、もう、大変！！山や公園の大きな木が、緑で染まるのとは規模が違いますが、自分で育てた小さな緑が、どんなにか子どもの心に、大きな達成感をくれるでしょうか。この作品の「ぼく」も大きな達成感と大きな収穫を得ますよ！

『おひやくしようのやん』 ディック・ブルーナ：作 福音館書店

うさこちゃんシリーズの1冊です。うさこちゃんシリーズって小さな絵本なので、赤ちゃん対象かななんて思いがちですが、ストーリー性の高い作品も多いのが特徴です。でも、物語がわからなくても良いですね。赤ちゃんは、大きくてはっきりした絵に目を奪われてしまい、それで、充分絵本を楽しめているのですから。

『がたごと ばん たん』 パット・ハッチンス：作 福音館書店

「おじいちゃん」と「ぼく」は野菜や果物を収穫します。その後ろからついてくるのは、「赤いめんどり」。めんどりさんに「ぼく」は「こんなこともできるんだ」って、自慢して収穫を続けます。でも、めんどりさんもちゃんと、自然の恵みをくれますよ。

『くんちゃんのはたけしごと』 ドロシー・マリノ：作 ペンギン社

家の中で、こぐまのくんちゃんは床を水浸しにしてしまいます。すると、大忙しお母さんは、外で畑仕事をしているお父さんのお手伝いをするようにと言います。くんちゃんは外に出て、お父さんの畑仕事をのお手伝いをしようと張り切るのですが、やっぱり失敗ばかり。そこで、くんちゃんはお父さんの畑仕事をしっかり観察して、褒めてもらえる畑仕事ができるようになったんですよ。えらいね、くんちゃん！

『ぼくの庭が できたよ』 ゲルダ・ミューラー：作 文化出版局

ベンジャミンとカロリーネは広い庭のある家に引っ越ししました。でも、広い庭は何の手入れもされていなかったので、荒れ放題。そこで、家族全員で、話し合って素敵な庭にしようと決めます。庭仕事の道具に、作業に、庭に来る鳥たちが事細かに、とても美しく描かれています。ガーデニング好きの方には、参考になる1冊かもしれませんよ。